



「きれいな
なっているかな？」

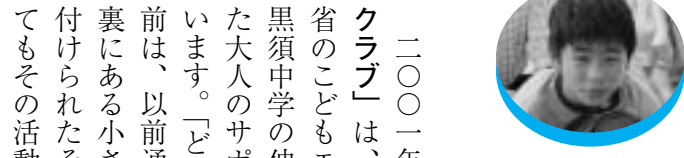
▲霞川で採水中の真幸くん

二〇〇一年に発足した「どんぐりクラブ」は、真幸くんを中心に環境省の子どもエコクラブとして現在、黒須中学の仲間四人とご両親を含めた大人のサポーター四人で活動しています。「どんぐりクラブ」という名前は、以前通っていた黒須小学校の裏にある小さな「どんぐり山」から付けられたそうです。人数は少なくてもその活動は幅広く、万燈まつりでの「ごみ分別調査キッズ」の作成、割りばし回収、地域の樹木調査・マップづくり。さらに国土交通省による「身近な水環境の一斉調査」に参加、入間川や霞川などの主に合流地点を中心に水質調査を実施。地域の河川や水辺の様子・水質などの報告書をまとめました。その他市民環境調査「加治丘陵せせらぎ探検隊」にも参加、山の中の源流では自然とのふれあいのなかで植物や生物などの新しい発見を体験。また市内

生涯学習とは、生きがいのある充実した生活を送るために、生涯にわたって自由に楽しく学ぶことです。



▲霞川で採水中の真幸くん



家族・仲間と環境保全に取り組む岡野真幸くん(黒須) 生き生きかがやいてー 「楽しい事がいっぱいー」 何でもエコクラブ

のグループ「532クラブ」との交流会「道草を食べよう会」では、食べられる野草をテンプレートにしてみんなでおいしく食べたいこともあり、主催「彩の国子どもエコクラブ」や、さいたま文化センターでの「エコクラブフェスティバル」などで発表。また都内の新宿御苑で開催された「TOYO子どもエコクラブまつり」には特別ゲストとして埼玉原から「どんぐりクラブ」が招待されました。真幸くんも現在中学一年生。この楽しい活動を卒業までにたくさんの人に繋いでいきたいと笑顔で呼びかけています。



生涯学習とは、生きがいのある充実した生活を送るために、生涯にわたって自由に楽しく学ぶことです。



▲西野画伯とバックに作品が見られますが、店内に展示されている油彩、木板画は入れ替わり、ミニ画廊になっています。

油彩・木板画家 西野一男さん(中神) 少年の夢・四十年まっしぐら

入間市中神に「理想にの」というお店があります。お店の中に何枚かの絵が展示されています。この作品の作者・西野一男さんは現在、入間市美術協会の会長をされています。

子供の頃からとても絵を描くことが好きでした。二十代の半ばから本格的に絵の勉強を始められました。自宅の庭先にアトリエを建築され、画家として四十余年歩み続け、木板画、油絵など数多く描いています。

☆「学び」をお手伝いします!☆

学びたいけど何を何処でやっているかわからない。そんなあなたのお役に立ちます。



◎いるま生涯学習ガイドブック

市主催の講座やイベント、近隣大学の公開講座等の情報

◎いるま学びの場

公民館等で活動するサークルや市内の民間教室情報

◎「茶の都出前講座」

市職員が講師として、ご希望の日・場所に入間市に関する講座をお届けします。

これらの情報は、市役所(市政情報コーナー)や公民館でご覧いただけます。入間市公式ホームページでも紹介しています。
<http://city.iruma.saitama.jp>

生業の理容はほとんど奥様に任せて博物館を巡ったり、絵を描くために必要な花を挿す壺、その下に敷く布墨絵を描く時に必要な硯、水滴などを求めて骨董店廻りをされるそうです。あるときは、数十万円もするものを買って、奥様に言えないためにアトリエの隅っこに置いて、ほとぼりの冷めるのを待っていたなどなど、こんなエピソードをたくさん持つ西野画伯は入間市生まれ。子供のときからの夢を実現するために努力し続け、地元の画家として活躍中。絵への並々ならぬ情熱に奥様もあきらめられ今ではよき協力者です。寄贈の作品は産業文化センター、根通り学習等併用施設に展示されています。絵のほか日本板画院同人、入間市図書館協議会委員として地域の文化、自治活動など幅広い活躍をされておられます。

生涯学習とは、生きがいのある充実した生活を送るために、生涯にわたって自由に楽しく学ぶことです。

☆ 第11回いるま生涯学習フェスティバル ☆

人間ルネッサンス

あなたの 学びで 育つ まち

子育て、福祉、環境、まちづくり等のテーマに添った催しや、芸術文化、スポーツ等の展示や体験コーナー等。
※詳しくは11月15日号の「広報いるま」をご覧ください。

日時 平成17年11月27日(日) 午前10:00~午後3:45
場所 産業文化センター・図書館本館・児童センター・彩の森入間公園・市民体育館他

● 編集後記 ●

● 天空に雲を掲げたような樹形は、いつの時にも愛されたことでしょう。不思議と落雷がないという。樺は入間市の木です。(E)

● 生きいきとやさしさを大切に生きていく方の取材を通して、人っていいなあ……心がキューンとなりました。(O)

● 取材して、わかり易く説明することの難しさがありました。思っていること、たくさんあるのに……。(K)

● 取材を通じて夢を実現するため地味にコツコツ努力している姿に感激。残された時間を有意義に使いたいと思っています。(S)

● 「かがやく」も、今年で十歳の誕生日を迎えました。これからは切磋琢磨しながら熱い思いで生涯学習を語って行きたいと思えます。(N)

● どこか仙人の趣を持っていたり、暖かい光だったり、頑固で寂しい横姿の熱い思いだったり、いろんな輝きに励まされる取材でした。(Y)

企画編集：「かがやく」編集委員会
発行：入間市教育委員会生涯学習課

お問い合わせ 入間市教育委員会生涯学習課
連絡先 〒358-8511 入間市豊岡 1-16-1
TEL 04-2964-1111(内線4123) FAX 04-2964-4841



■ハンゲル語教師 裴淵珠さん(下藤沢)

「お互いの良いところを合わせれば素晴らしい世界になると思います。」

その言葉の実践でしょうか。韓国人の裴さんがご主人と結婚して日本へ来たのは七年前。入間市に定着したのは五年前のこと。少しでもはやく地域に溶け込みたく、転居後直ぐに自治文化課を訪ねました。

「私は韓国から来ました。ハンゲルを教えたいです。」

自分をオープンにしたら地域の方々は何でも親身になって教えて下さり、お陰で日本の歴史や風習など、未知だった日本の文化をたくさん学ぶことが出来ました。一方、裴さんにハンゲルを教わった生徒さんの中には、韓国へ留学した方もいるそうです。日本に来てからはいろいろな国の友

▼小学生に囲まれた裴さん。西武小学校の国際理解教室で韓国を紹介しました。



問わず人の良いところを見つけ、それを学んでいく事を喜びとする彼女

の生き方、その輝きが国際的です。



■暮らしに密着した日本語指導 中村廣子さん(仏子)

図書館西武分館の二階の一室から童謡が聞こえてきます。授業が終るようです。毎週水曜日の十時～十二時、「日本語教室・仏子」の「もじもじクラブ」では、外国からきた方々に日本語を教えています。

この会は、シニアボランティアとしてブラジルの僻地に赴いた時、コ

■カンボジア内戦後の学童支援 中村利夫さん(仏子)



カンボジアの小学校を後援する活動を続けています。

中村利夫さん(トローバイク小学校応援団・代表58歳)。カンボジアへは今回で六回目の訪問です。目的は世界児童画展の入賞記念品を子どもたちに卒業前に手渡すためです。特に今年も参加国も多く三八カ国に亘り、作品数も六三、〇〇〇点以上、それに混じってトローバイク小学校から三八作品が応募し一〇作品が入賞しました。今回は初めて金箔の額縁を奮発し、表彰状を手渡したので大好評でした。贈った画材で子供たち

が描く絵も年々上達し、運営関係者を驚かせています。

カンボジアとの係わりは一九九九年九月の新聞に発表されたバーナード・クリスチャー氏の提唱する「カンボジアに学校を作ろう」キャンペーン広告を見たのが始まりです。

カンボジア国内は、まだ上下水道が整備されておらず、家庭での飲み水処理は、子ども達の労働力に頼らざるを得ない現状を見て、今年十一月に訪問する時は飲み水用のバケツを乗せる台車をお土産にしようと決めたとのこと。



四年間の活動を通して、スタッフたちへの強い信頼が人材育成に繋がりが、学ぶ側に役立つ企画が次々提案され地道な活動を支えています。「外国語が分からない人でも熱意があれば、誰でも日本語指導者になれますよ」という言葉に心が揺り動かされました。

いま、学んで、輝いて



丸山正広さん(64歳) 高鍋正季さん(72歳) 鈴木安徳さん(72歳)

■安全パトロール 三人の仲間(宮寺)

「おじさん うれしくって……」が 自治会活動で防犯パトロールを始めた頃、学童誘拐殺人等のニュースが相次ぎました。自分たちで何が出るのか相談し、下校時の交通安全誘導、不審者の監視をやるうと狭山小と連絡の上、登校日には欠かさず行なって、約一年になります。

最初は、お互いぎこちない挨拶や指導会話もすぐ慣れて、危険な行為に對してきつく注意しても従ってくれるようになり、「オジサン何が好き?」「ラーメン」と答えると「ラーメンも好きだよ」と会話が弾みます。やはりうれしいのは学童との触れ合いで、三月の卒業式の折には、帽子を取って「オジサンありがとうございました。」という言葉に心が癒されました。学校からも交通安全だけでなく不審者等に対する抑止力と



子供たちとの会話も弾みます



■渓流文化を楽しむ・戸門ご夫妻(春日町)

「山女・岩魚に魅せられました」

昨年、アリットの特別講座で戸門秀雄さんが「入間川の漁(すなざり)」と釣り」をテーマにお話をされました。戸門さんは入間市に生まれました。子供のころ、近くの入間川で泳いだり、飽きずに魚をとって遊んでいたうちに川が好きになっていきました。考古学を志されたこともありましたが、渓流魚の魅力に取りつかれ断念。春日町に渓流魚と山菜、キノコを食材とした郷土料理店「ともん」を開店して三十余年になります。定休



▲全国の自然の恵み-山菜を求めて山河を巡るご夫妻。著書として「山の魚たちの午後」「渓流魚料理」「キノコ料理」他多数

日には奥様と東北、北陸にヤマメ、イワナの渓流釣り、山菜、キノコの採集に出掛けられます。「魚の顔を見

ると、どこの川にいたか分かります。魚は履歴書を背負っています」と語られるのは、たくさんさんの魚と会話をされてきたからでしょう。一年中ヤマメ、イワナの顔を見ながら、生活される戸門さんご夫妻の笑顔の中に、幸せな人生を見せていただきました。

古木・巨木と生きる

■狭山茶の栽培 十二代目 小澤正幸さん(東町)

「樺と一緒に生きるのがうれしい!!」 「枝の雪が朝日に溶けて、湯煙をあげながら樹幹をキラキラと滝のように……かなりの水量です。めったに見られません」と厳寒の感動を話される正幸さんは十二代目若ご主人。芽吹き、遮光と涼風、落葉、空に網張りとして巡る四季の樺との対面が喜びとのこと。「樹齢はおよそ百五十年」と大旦那さん。「何年も生えているからすごい。温暖化?知ってるよ。CO2を吸ってO2を出す植物を大切にすると、地球を守れると先生が話してくれました。樺は空気をきれいにしてくれるからありがたい」と隆史くん(小5)。康佑くん(小2)も「樺があつてよかった。大切にしたい。一緒に生きるのがうれしい」と。二人は地域の昔話や背丈よりも低かった頃の事を問いかけるという。大奥様と若奥様は「毎年二回、家族旅行の最後に必ず樺と一緒に撮るんですよ」と記念写真を手に微笑まれました。心温まる人間の光景です。



入間市を見続ける大ケヤキ▼



今年の家族記念写真